

完了後の評価個表

事業名	森林環境保全整備事業（国有林）	事業実施期間	平成 26 年度～平成 30 年度（5 年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	（とちち） 十勝森林計画区 （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 とちちせいぶ 十勝西部森林管理署 東大雪支署 ひがしだいせつ
完了後経過年数	4 年	管理主体	十勝西部森林管理署東大雪支署
事業の概要・目的	<p>本事業は、北海道の南東部に位置する、^{かみしほろちよう}上士幌町を含む 4 町に所在する約 150 千 ha の国有林野を対象としている。</p> <p>本計画区のうち、本支署管内は、日本百名山にも数えられるトムラウシ山や^{とちち}十勝岳のほか、ニペソツ山、^{いしかり}石狩岳等の北海道を代表する山々に囲まれた地域で、亜寒帯針広混交林の広がる日本有数の森林地帯である。これらの地域は^{ひだか}日高山脈森林生態系保護地域、^{たいせつざん}大雪山森林生態系保護地域として保護林に設定されるなど、学術的に貴重な森林が多い。</p> <p>また、大雪山国立公園に指定された国有林野は高峰トムラウシ山と周辺一帯の広大な針葉樹林の樹海、^{しかりべつ}然別湖を囲む天然林でおおわれた山岳、大雪山系と^{ぬかびら}糠平湖畔の壮大な風景が眺望できるスキー場など原始的で雄大な自然を保持し、登山やキャンプ、温泉保養、スキーを中心とした滞在型森林レクリエーションの場として四季を通じて多くの観光客が訪れる。</p> <p>森林の現況は、人工林面積はトドマツ（64%）を中心に約 13 千 ha、天然林面積は約 123 千 ha を有し、森林の蓄積は北海道の全道平均 134 m³/ha に対して、201 m³/ha となっている。また、総面積の約 93% が水源^{かん}涵養を主な目的とした保安林に指定されており、水源林として地域の生活用水や基幹産業である農業の振興に資する観点から地域の資源保全に重要な役割を果たしている。</p> <p>一方、人工林の齢級構成は、約 88% が 7～12 齢級で、その中でも主伐期とされる 10 齢級以上の割合は約 51% を占め、森林資源の本格的な利用期を迎えているため、針広混交林や複層林へ計画的に誘導し、木材を安定的に供給するほか、間伐の適切な実施や主伐後の確実な更新を図るなど、森林整備の必要性は一層増している。</p> <p>このため、本事業は森林の有する公益的機能の持続的な発揮を通じて地域の期待に応えるとともに、国産材の安定供給体制の構築及び地球温暖化防止にも貢献するため、森林整備を積極的に推進するとともに森林整備の効率的な実施に必要な路網整備を実施したものである。</p>		

	<ul style="list-style-type: none"> ・主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> 森林整備 更新面積 48ha <li style="padding-left: 40px;">保育面積 3,502ha 路網整備 開設延長 2.5km <li style="padding-left: 40px;">改良延長 0.5km ・総事業費 1,688,233 千円（税抜き 1,563,179 千円） （平成 25 年度の評価時点 1,887,049 千円（税抜き 1,787,666 千円））
<p>① 費用便益分析の算定基礎となった要因の変化</p>	<p>令和 5 年度時点における費用便益分析の結果は以下のとおりである。 なお、事前評価で算出した総便益及び総費用と完了後の評価で算出した総便益及び総費用との差異については、実行段階における優先度を勘案した事業の実行に伴う事業量の変動等によるものである。</p> <p>総便益 (B) 19,761,301 千円（平成 25 年度の評価時点：17,194,328 千円※） 総費用 (C) 3,864,896 千円（平成 25 年度の評価時点：2,680,186 千円※） 分析結果 (B/C) 5.11（平成 25 年度の評価時点：6.42）</p>
<p>② 事業効果の発現状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・更新、保育によって適正に森林が整備され、水源涵養や山地保全、地球温暖化防止等、森林の有する公益的機能の維持増進が図られた。 ・林道等の路網整備により、車両が通行可能となったことにより、森林整備事業地までの所要時間や木材の搬出距離が短縮されることで木材生産の経費縮減が図られた。 ・計画的な事業の発注を通じて、雇用の場を提供することにより、地域の社会経済に貢献した。
<p>③ 事業により整備された施設の管理状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・整備された森林は、継続して適切に管理しており、良好な状態である。 ・整備された路網は、適切に維持・管理しており、良好な状態である。
<p>④ 事業実施による環境の変化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水源涵養や山地保全の機能が十分に発揮できる森林が形成されている。 ・周囲の森林と調和した施業は自然景観を保持し、保健機能等を充実させている。
<p>⑤ 社会経済情勢の変化</p>	<p>北海道の林業就業者数は近年おおむね横ばいで推移する中、本地域では平成 27 年度の 151 人から令和 2 年度には 273 人と近年は増加傾向で推移している。一方、本地域における令和 2 年度の林業就業者の高齢化率は 34%と高く、依然として林業労働力の将来にわたる継続的な確保が課題となっている。</p> <p>また、北海道内では木質バイオマスの需要拡大や道産材建材の利用拡大の取組が展開され、木材需要拡大が見込まれている。</p> <p>こうした状況の中、国有林においても、森林環境の維持管理と、林業・木材産業の成長産業化に寄与するため、自然条件や作業システム等に応じた路網整</p>

	<p>備を推進するとともに、水源の涵養、国土の保全、木材等の生産といった森林の有する多面的機能が発揮されるよう、森林の整備を進めることが求められている。</p>
<p>⑥ 今後の課題等</p>	<p>森林資源の適正な管理・循環利用を図りながら森林の有する多面的機能を持続的に発揮させるため、地域管理経営計画及び国有林野施業実施計画に基づき着実に森林整備、路網整備を実施する必要がある。</p> <p>事業の実施に当たっては、今後の施業を想定した効果的な路網配置に加え、コンテナ苗の活用、伐採と造林の一貫作業により、森林整備の省力化及び低コスト化に資する取組を推進することが課題となる。また、森林による地球温暖化防止への貢献に対する期待や北海道産材の需要の高まりに応じた木材の安定供給体制を構築するなど、北海道の林業・木材産業及び地域振興に貢献する取組が求められる。</p> <p>なお、これらの取組は、関連する地域の自治体や林業事業体と現地検討会等を通じて技術の共有を図り、普及に向けて連携することが重要である。</p> <p>地元の意見：</p> <p>(北海道)</p> <p>森林整備事業及び路網整備事業の実施により、森林の有する多面的機能の維持増進が図られたと認識している。今後とも道や関係市町村等と情報の共有を図りながら、森林整備を推進していただきたい。</p> <p>(上士幌町)</p> <p>国が打ち出した 2050 年に向けたゼロカーボン化や脱炭素の取組を推進するためにも森林を吸収源とした期待は高いほか、将来に森林資源を繋いでいくこと及び資源を平準化するためには計画的な再生林が必要である。</p> <p>貴支署の上士幌町における保育作業については適切に実施されていると認識している。一方で植え付け面積については、平成 26 年度から平成 30 年度までの 5 年間で 23ha と低調となっている。</p> <p>先に述べたとおり、森林資源を未来につなぎ、森林を吸収源とした役割にも意識を向けた再生林の推進をより一層お願いする。</p> <p>(^{しんとくちよう}新得町)</p> <p>新得町において平成 26 年度から平成 30 年度までの間伐等保育作業は、適切に実施されたものと評価できるが、植付面積が 7 ha と全体の施業面積と比較すると少なくなっている。</p> <p>このことは、間伐箇所が多く、再生林が伴わない林地が多いことによって少なくなったと推測されるが、現状の国有林を見た場合、保育不足の造林地も見られることから、造林時点からそのような箇所の施業の見直しも必要である。</p> <p>また、国有林内にあるヌプントムラウシ林道が平成 25 年に一部崩壊、平成 28 年の台風により完全崩壊し、通行止めの状態が今も続いている。</p>

	<p>同林道は、天然露天風呂であるヌプントムラウシ温泉に繋がる唯一の道路であることから、再開に向け復旧を要望するのと合わせ、その他林道の計画的な復旧を要望する。</p> <p>（鹿追町^{しかおいちょう}）</p> <p>本町は令和3年3月に鹿追型ゼロカーボンシティに挑戦することを宣言し、2050年までのカーボンニュートラル実現に向けての取り組みがスタートした。その取り組みの中でも森林のCO2吸収量を約56千tと試算しており、CO2の削減において森林が果たす役割は非常に重要だと言える。このCO2吸収量の内、約54千tは国有林での吸収量であり、本町におけるCO2削減の要と言える。これだけの吸収量を確保できているのは森林整備が着実に実施されているということであり、その価値は十分に評価できるものである。引き続き同事業の継続と国有林の整備を要望する。</p> <p>（土幌町^{しほろちょう}）</p> <p>土幌町内は国有林の占める割合が低いものの、人工林保育を適切に実施していることは評価できるものである。</p> <p>今後も同事業の継続と国有林の整備を要望する。</p>
<p>森林管理局事業評価 技術検討会の意見</p>	<p>本事業の実施により、水源涵養や山地保全等の森林の持つ公益的機能の維持増進が図られてきており、事業の効果が発揮されていると認められる。</p>
<p>評価結果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要性： 本事業は、基幹産業である農業の振興に資する観点から、森林の有する水源涵養機能等の発揮に重要な役割を果たしている。また、優れた観光資源の維持保全や緑の回廊の設定による貴重な野生動物等の生態系保全にも大きく貢献し、保健文化機能をはじめとした多面的機能の維持増進に寄与する観点からも、事業の必要性が認められる。 ・ 効率性： 事業採択時と比較すると、事業量の変動などによりB/Cは低減したが、現況に即した路網配置や路網と高性能林業機械を適切に組み合わせた作業システムの定着が図られており、事業の効率性が認められる。 ・ 有効性： 本事業により、森林の有する多面的機能が一層発揮され、引き続きその効果が発現されると見込まれる。また、水源涵養や山地保全の機能が発揮され、基幹産業の振興や地球温暖化防止に寄与していることから、事業の有効性が認められる。

※平成25年度の評価時点における数値については、消費税を含んだ数値である。

様式1

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名：森林環境保全整備事業(国有林)

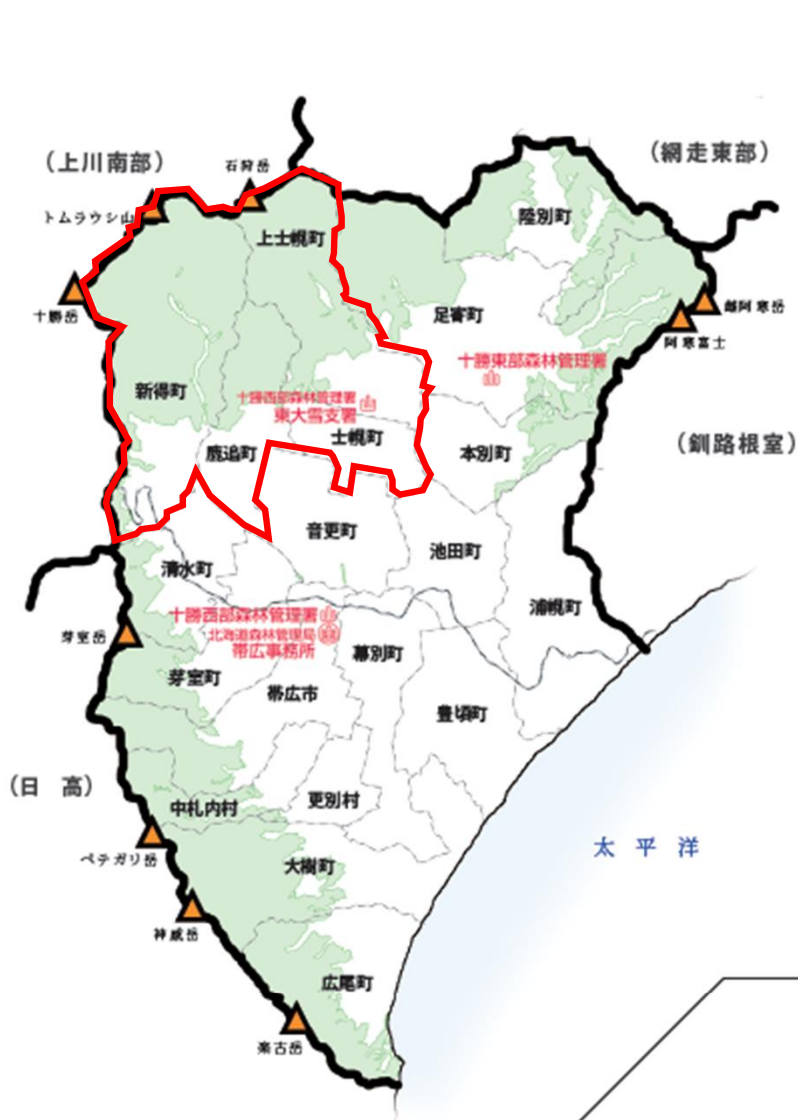
都道府県名：北海道

施行箇所：十勝森林計画区(十勝西部森林管理署東大雪支署)

(単位：千円)

大 区 分	中 区 分	評 価 額	備 考
水源涵養便益	洪水防止便益	4,327,491	
	流域貯水便益	1,165,362	
	水質浄化便益	4,461,116	
山地保全便益	土砂流出防止便益	6,635,000	
環境保全便益	炭素固定便益	997,728	
木材生産等便益	木材生産経費縮減便益	798,755	
	木材利用増進便益	448,424	
	木材生産確保・増進便益	623,496	
森林整備経費縮減等便益	森林管理等経費縮減便益	17,630	
	森林整備促進便益	286,299	
総 便 益 (B)		19,761,301	
総 費 用 (C)		3,864,896	
費用便益比	$B \div C = \frac{19,761,301}{3,864,896} = 5.11$		

森林環境保全整備事業 十勝森林計画区 事業概要図（十勝西部森林管理署東大雪支署）



凡 例	
国 有 林	
主 要 山 岳	
鉄 道	
森林計画区界	
市 町 村 界	
森林管理署等	

